

「ジョン万次郎の夢は」日本で草の根デモクラシー革命だった（要旨）

①平成二年八月に湾岸紛争が始まり、冷戦が終わった直後、日本が国際社会の中でどう生きるかで、右往左往していました。小沢自民党幹事長は、小学館から出版されたばかりの『中浜万次郎集大成』（川澄哲夫慶応大学教授編集）から、漂流少年万次郎が米国捕鯨船に救助され、幕末の国際社会で生きてきた精神に、日本人は学ぶべきだと考えました。

②そのため「草の根レベルで、人的、文化的国際交流を徹底して行うことが、日本の安全保障の礎となる」とし、「ジョン万次郎の会」の設立を決意しました。万次郎は議会政治の開設にも貢献しましたので、国会開設百周年の同年十一月二十九日、憲政記念館で発会式を行いました。

③同月八日自公民幹事長書記長会談で、国連平和維持活動に自衛隊と別組織で協力することとで合意。社・共が反対という大きな政治的出来事がありました。この合意案は土井社会党委員長から、事務局担当の私のところに極秘にメモが届き「これなら賛成します」と伝えられていたものです。それを山口社会党書記長らが、面子を潰されたと拒否した経緯がありました。そんな事情で、発会式に土井委員長を外して市川公明・米沢民社両書記長を政党関係では案内していました。

④発会式の前日、私に土井委員長から、カンカンに怒って電話がありました。「私に声をかけずジョン万次郎の会を発会させるとは何事ですか。私の母校同志社の創設者新島襄が指導を受けた恩人よ」。丁寧な謝り出席してくれました。

⑤発会式で会長に就任した小沢さんは「これまでポストをねだったことはないが、これだけは買って出た。国家間の友好は市民の草の根交流による真の友好が前提だ」と挨拶。土井委員長は「市民の草の根交流を広め深めることが平和のもと憲法九条の精神です」と。川澄教授は記念講演で「万次郎の夢は、日本の草の根デモクラシー革命だった。小沢会長

は万次郎の夢を実現する責任がある」と激励しました。

⑥年が明けて平成三年、万次郎漂流百年の年。湾岸戦争が終わった直後でした。不破哲三共産党委員長の使者が、私の部屋に見えました。不破委員長の伝言の趣旨は、①父の故郷は万次郎と同じ足摺岬。保守側の小沢幹事長や平野君が、万次郎を評価して世の中に出したことは悔しい。共産党が出すべき人物だった。②現在のヨーロッパで共産主義などに学ぶものはない。学ぶべきは万次郎がいた頃の米国の草の根デモクラシーにあるかもしれない。資料や情報があればよろしくとの話。私は共産党が冷戦後の日本で健全な国民政党に大きく変化したことに驚きました。

⑦「ジョン万次郎の会」は財団法人「国際草の根交流センター（CIE）」として、現在も活動を続けています。万次郎への国際的関心は大きく高まり、平成二十年には聖路加国際病院の日野原重明先生の呼びかけで、万次郎を救助した捕鯨船のホイットフィールド船長邸、万次郎が暮らした家を保存するため財団を設立しました。その発起人に政治家も参加してもらった話が出ました。私から不破さんと土井さんの万次郎との関わりを説明し、日野先生から文書をお願いしたところ、二人とも喜んで資金集めの財団の発起人となってくれました。土井さんは財団の発会に出席し、平和憲法と草の根交流の話をしていました。

当時、日本の政党の指導者たちは「日本で草の根デモクラシー革命をやるか」という万次郎の夢を共有していたのです。現代の政治家にその発想を見つけないことはできません。「草の根デモクラシー革命」とは、「健全な政権交代政治の定着」のことです。それが「国民の生活が第一」の政治となります。

